

令和7年度市民活動団体意見交換会

1 概要

市民協働のまちづくりに向け、各団体の交流や連携の促進を図るため、市民活動団体を対象とした意見交換会を開催しました。

2 日時

令和7年6月25日（木）14時～16時

3 場所

三原市役所3階 304・305・306 会議室

4 出席者

市民活動団体 11団体（13名）

5 プログラム

(1) 市民協働のまちづくりについて（説明：三原市地域企画課）

(2) 事例報告（報告団体：ほんごう子ども図書館）

ほんごう子ども図書館の取組みについて

(3) 意見交換

テーマ1：団体の運営（活動資金 ・ 新規会員獲得 ・ 次期リーダーの育成）

テーマ2：団体の活動（周知方法 ・ 活動の工夫 ・ 効果的な活動）

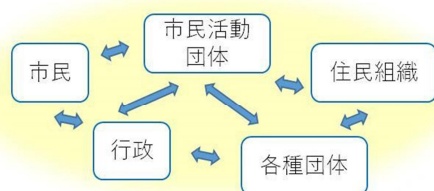
(1) 市民協働のまちづくりについて（説明：三原市地域企画課）

三原市から市民協働の概要や市民活動団体の活動を支えるための市等が行う支援施策について説明しました。

協働とは

協働とは、
2 者以上の者が、同じ目的のために、協力して働くこと。

≡ 連携、協力、共創など



2

協働の取組を応援します

市民協働のまちづくりに向けて、三原市ではこのような応援をしています。

- 市民活動団体育成事業
- 市民提案型協働事業
- クラウドファンディング活用促進事業費補助
- 市民協働サイト「つなごうねっと」
- まちづくり活動ルームの設置
- 三原市ボランティア・市民活動サポートセンターの設置



5

(2) 事例報告（報告団体：ほんごう子ども図書館）

普段の活動や近隣学校との関わり、時期ごとに行われるイベント等について、たくさんの写真を使いながら報告されました。

ほんごう子ども図書館

資料2



本の中の世界



自然の中での体験



両輪

2002年7月8日
「子ども広場
なんじゃもんじゃ」
開設

子どもの豊かな育ちへ

ほんごう子ども図書館の事例報告に対する質疑応答

【団体について】

Q スタッフはどのくらいいるのか？

A 登録しているスタッフは 15 人程度だが、全員揃うことは少ない。各イベントにおいて、7～10 人程度で活動することが多い。

【(発表の中にあった) 子どもだけで企画運営する秋まつりについて】

Q 子どもだけでイベントを行えるようになるまでのノウハウを教えて欲しい。大人が提案などすることはないのか？

A 子どもの下校中などにスタッフにならないかと声をかけ、集まってもらう。その後は、子どもだけでアイディアを 30 個ほどだし、5～6 個まで絞ってもらう。子ども達のやりたいことを尊重するため、大人は言いたいことがあっても絶対に口を挟まないようにしている。子ども達だけで挨拶、司会、出店の運営、記録などするため、保護者の間で良い経験になるイベントとしても浸透してきている。

Q このイベントにはリーダーなどいるのか？

A まつり全体のリーダーや各店舗ごとのリーダーもいる。途中準備等が止まってしまうお店があっても、他のお店を見て最後までやりきっている。

【学校との協働について】

Q 小学校、中学校、高校など、どのようなきっかけで協働できるようになったのか？

A 小学校の近くに活動の広場があり、そこを利用して一緒に活動できないかと校長から企画書と一緒に声をかけてもらえたのが大きいと思う。10 年以上前から地域を探検するような授業のコースの中に子ども図書館が位置づけられていたので関わりは以前からあった。中学校の職場体験についても恐らく 15 年以上前には声をかけてもらっていたように思う。

(3) 意見交換

事前に希望した二つのテーマに分かれ、それぞれのグループで意見交換を行いました。

テーマ 1：団体の運営（活動資金 ・ 新規会員獲得 ・ 次期リーダーの育成）

【活動資金】

- ・物を作る時の一部工程を委託する費用が完成品を販売する費用よりも高くなることもあり、会費や販売費用でなんとか賄っている。
- ・知り合いの方や地元企業を訪ねて寄付金や協賛金等を頼んでいる。
- ・助成金に関する情報収集に気を配り、日々使えるものを探している。社会福祉協議会の赤い羽根募金を使って学生と一緒に企画や活動を行っている。
- ・団体として講師をすることもあるため、その謝金を活動に充てている。

【新規会員獲得】

- ・ホームページ等で募集してもなかなか会員が集まらないことは課題に感じている。
- ・高齢の方などにもできる範囲でということで手伝ってもらっている。
- ・定例の活動の場に来てくれる人に声をかけている。ただし、いきなり他の会員と同じようにするのではなく、事前の相談会を開いたり、負担に感じないように少しずつ参加してもらい、会員になるまでの緩いステップを設けるようにしている。最近の方は特にこのステップを設けることが必要だと思う。
- ・まずは団体を知ってもらうことが必要。
- ・報道関係者に情報提供をすると時々協力してくれることがある。
- ・行政が開催するスポーツ教室に参加した人やボランティア養成講座を開いて参加した人が会員となっている。

【次期リーダー育成】

- ・活動を引っ張ってくれるような人がなかなかおらず、課題に感じている。
→会員それぞれの得意分野を知り、自分だけをするのではなく頼めることは頼んでいくことも引き継いでいくには必要だと思う。

テーマ2：団体の活動（周知方法 ・ 活動の工夫 ・ 効果的な活動）

【周知方法】

- ・ 長年活動していても団体や活動が知られていないこともあり、周知は今後必要だと感じている。
→ 何のために周知するのか、目的を持って周知した方が今後の活動に効果的だと思う。
- ・ チラシ等をお店や施設、病院等に置いてもらえるようお願いするが、断られることも多く広報に難しさを感じている。
→ チラシ等が置きやすくなるような市民活動団体のにぎわいづくりをバックアップするような手続きが簡単な仕組みが欲しい。
(後援なども含めて手続きが難しい。)

【活動の工夫】

- ・ 活動をするために市の補助金等を使うが、書類作成が難しい。民間の助成金等も上手く活用していきたい。
- ・ 参加者が抵抗なく来ることができる場所を活動場所を選ぶことも大切。

【効果的な活動】

- ・ 最初は活動で作った冊子等を置いてもらえなかった所も、新聞に掲載されることで置いてもらえるようになった。周知において、お墨付きがあることが効果的だったため、何かを作った際には、主要な新聞社には取り上げてもらうようお願いしている。
- ・ 市の協働事業などを実施することで広報がしやすくなったことがあった。

【その他】

- ・ 周知や団体の認知度が低くても、団体や活動があること自体が大切で、まちの価値を高めていると思う。